



# ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 286  
January  
2017

## トピックス

### お知らせ

タイ王国内務省副大臣一行  
のご訪問

### ADRC客員研究員 レポート

¶ アクバル バチャ  
(パキスタン)

¶ J. M. A. R. ジャヤラトネ  
(スリランカ)

¶ ティブルット サロテ  
(タイ)

## Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通  
1-5-2 東館5F

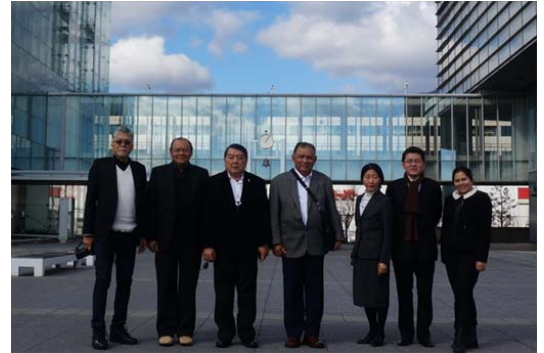
Tel: 078-262-5540  
Fax: 078-262-5546  
editor@adrc.asia  
http://www.adrc.asia

© ADRC 2017

### ●お知らせ

#### タイ王国内務省副大臣一行のご訪問

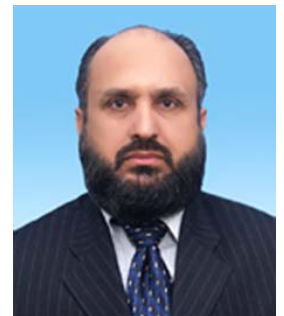
1月25日に、国際復興フォーラム2017のため訪日されたタイ王国内務省副大臣のナダピット・スニボンゴ警察中将一行6名が、アジア防災センター(ADRC)を訪問されました。ADRCから1月に発生したタイ南部洪水に対して衛星画像データを提供したセンチネルアジアなどの事業説明を行った後、外国人客員研究員招聘プログラムの充実や今後の防災の主要課題などについて意見交換を行いました。その後、一行は、神戸市危機管理センターと人と防災未来センターを視察されました。



### ●ADRC客員研究員レポート

#### アクバル バチャ (パキスタン)

こんにちは！私はパキスタンから来ましたアクバル・バチャと申します。母国のパキスタンでは国家防災局(NDMA)の課長補佐として働いています。私は防災学と行政学の分野を修了し、現在所属しているNDMAでは緊急計画の整備、緊急時のオペレーション、外国人支援活動などを担当しています。



パキスタンの地形や気候は多岐にわたっています。例えば、地形的には多くの海岸線を有し、平地、台地、高地などを見ることができます。一方で、気候的にはとても脆弱で地域で、気候変動の影響を受けやすい国でもあります。災害という側面では、地震、洪水、氷河湖決壊(GLOF)、地滑り、サイクロン、干ばつ、寒波などのこれまでも多くの被害を受けてきました。自然災害に対する防災対策としては、2005年10月にカシミール地方で発生したパキスタン大地震を契機として、パキスタン政府は新しい防災法を制定しました。これに続き、2007年には国家防災計画が発表され、具体的な活動記述を含む防災行動2010がここに明記され、国、州、県市での役割についても記載されています。

防災行動2010においては、国家防災委員会(NDMC)は防災に係る国家防災計画や関連法案を実行する主たる機関として記載されています。NDMCはパキスタン国の首相をトップにして、すべての州の上級代表、議会の上下院の野党の党首、軍の代表、市民団体およびNGOsの代表によって構成されます。

今回、客員研究員としての機会を頂いたパキスタン国の防災局とADRCに感謝を申し上げます。滞在期間中は、「パキスタンにおける防災教育の

## 続き

役割とニーズ」を研究テーマとして研究の活動をしたいと思います。日本は歴史的にも多くの災害の経験があり、防災対策についても、関連計画の立案や早期警報など、先進的取り組みが対応されていると思います。これらの経験や知識は、きっと私の研究に役立ち、パキスタン国の防災局においても貢献できると思います。

最後になりますが、改めまして関係各位皆様、客員研究員の皆様にもお礼を申し上げます。

## J. M. A. R. ジャヤラトネ (スリランカ)

アーユーボーワン！こんにちは！私はスリランカから来ましたジャヤラトネと申します。母国のスリランカでは、**2008年**からスリランカ国防災省の防災センターで早期警戒担当として働いています。

また、防災分野においてスリランカ国と関係各国の関係強化を図るために、関係機関と連携した業務にも携わってきました。これまで、日本を含めて、アメリカ、オーストラリア、イタリア、インド、インドネシアなどを訪問し、防災省で得た知識や経験を共有してきました。

スリランカ国内におきましては、過去3年において、洪水、干ばつ、地滑り、サイクロンなどによる多くの被害を受けてきました。特に、皆様の記憶にもあると思いますが、**2004年12月**に発生したスマトラ島沖地震においては、スリランカにも津波が到達し歴史的にみても最も大きな被害を受けました。この津波災害を契機として、**2005年**に防災法（Disaster Management Act No.13 of 2005）が成立され、防災分野における最高意思決定機関として国家防災協議会（NCDM）が設立されました。さらに、私の所属する防災局（DMC）がNCDMの下に設置され、防災施策を先導する実施機関として設立されました。

上記の通り、現在ではDMCがスリランカ国内の防災関連事業を実施する機関としての役割を有しています。例えば、早期警報では関係機関と連携して情報共有を行っています。緊急対策センターでは関係機関の職員が常駐し、自然災害や人的災害への対応を行い、地方自治体や住民に対してリアルタイムで情報の発信を行っています。

周知の通り、日本は多くの災害に関する経験を持っていて、災害後の対応や予防活動などについても十分な知見を持っていると思います。この知識や経験から、ADRCに滞在期間中は、私の研究テーマである津波早期警報の実用性について学んでいきたいと思います。

最後になりますが、今回の機会を頂いたスリランカ政府、ADRCの皆様にお礼を申し上げます。また、他の客員研究員の皆様と学べる機会に感謝を致します。



## ティブルット サロテ (タイ)

サワディーカー！こんにちは！私はタイから来ましたサロテと申します。私の母国のタイでは、**2013年**から内務省防災局（DDPM）で土木技師として働いています。

DDPMは、タイ国において防災分野の活動を実施する主たる政府機関として位置づけられています。DDPMの主な活動は、国内外の関係機関と連携して、災害時、災害前の予防などの全ての局面において防災活動の推進を行うことです。また、実際の災害時において、被災された方々を支援する活動も行っています。そして、被災地の早期復旧を目指した被災地再興のための活動、移住計画対応、被害を受けたインフラの修復などにも対応しています。

先ほども申し上げましたが、私はこれまで土木技師として**10年間**関連業務に従事してきました。過去には、緊急対応に関する訓練等にも参加経験があり、現在では地理情報システム



**続き**

(GIS) を用いた地図作成から、災害被害の減少や対策等の業務にも担当しています。これまでこのような防災に係る多くの分野で長年活動できたことを、今では大変嬉しく思います。

ADRCの客員研究員としては、2017年の1月から4月まで着任しています。私の研究テーマとしましては、日本が持っている経験を学び、GISやリモートセンシング技術を用いてタイでの防災分野に利活用できるような研究をしたいと思います。たとえば、衛星画像や地図を防災分野に役立てるセンチネルアジアはまさにテーマになると思います。

最後になりますが、今回客員研究員としての機会を頂いこと、また、日本における先進的防災活動について学ぶことができる機会を頂いたことにつきまして、タイ政府とADRCの皆様へ感謝を申し上げます。

**問い合わせ・配信申し込み**

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は  
editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。